

みちしるべ NO. 10

学校教育目標「自分から行動できる子・すすんで学ぶ子・たすけ合う子・きたえる子」



学びあい 支えあい 高めあい 笑顔あふれる学校
優しさと厳しさと温かさで
子どもを鍛え、育む地域の学校を目指して



静寂の音が聴こえる教室をつくる

校長 川島 正晴

夏の暑さもひと段落し、秋の虫の声が響く頃となりました。十五夜も美しい輝きをみせてくれた秋の入り口。保護者や地域の皆様のご支援をいただき、学びに集中できる2学期のスタートとなりました。心より感謝申し上げます。

始業式、避難訓練、稲刈り体験、授業研究会と行事の続く中ですが、子どもたちは意欲をもち、学習と生活を充実させています。



先日、テレビ番組の中で、司会進行役の神田正輝さんが「森の静寂の音が聞こえますか？」とレポーターに話しかけていました。みなさんは、「静寂の音」を聴いたことがありますか？

9月9日(金)3時間目から授業研究会で麻布教育研究所の永島孝嗣先生に全ての授業を参観いただく中で、「静かでしっとりとした授業がすばらしい。」とほめていただきました。



1年生は「カタカナをあつめよう」(国語)、2年生は「獣医さんの仕事」(国語)、3年生は、算数の「10000より大きいかず」(算数)、4年生は「同音異義語の動詞クイズ」(国語)、5年生は「たずねびと」(国語)、6年生は、「ドローネ図を2倍に拡大しよう」(算数)。どの教室でも、難しい課題が出され、学び続ける子どもたちが見られました。

こうした「静かな教室」には、独り言、つぶやき、作業の音が静けさと同居する形で聴こえます。学びに集中する子どもたちのつぶやきやため息、ささやき、対話。まさに「静寂の音がする」授業風景です。「取り組み始めて11年かかったなあ。権小もやっとここまで来ましたね。感慨深い。」

永島孝嗣先生は、沖縄から北海道までの学校(小・中・高)で、ほぼ毎日、授業観察・指導に当たっていますが、「今の権小なら全国に発信できる！」と最大の賛辞をいただきました。

学び合いは「話し合い」とはちがう、一人一人が自分のペースで学び続ける主体的な学びであり、対話のある学びです。ワクワクする問題、楽しい問題で仲間と考え合い、学びに向かう友達(仲間)と支え合い、学び直しをする授業です。2学期も、「静寂の音がする授業」に全力で取り組みます。

たくさんの行事が予定されており大変ですが、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。